

学 位 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

1. 申請者氏名	横山真智子
2. 審査委員	主 査：連大教授（滋賀大学） 與倉弘子 副主査：連大教授（岡山大学） 佐藤 園 委 員：連大教授（岐阜大学） 大藪千穂 委 員：連大教授（兵庫教育大学） 永田智子 委 員：連大准教授（滋賀大学） 森 太郎
3. 論文題目	持続可能な消費と生産に関する中学校技術・家庭科における授業研究 ：伝統的な綿織物の性能評価に基づいて
4. 審査結果の要旨	教科教育実践学専攻生活・健康系教育連合講座 横山真智子から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。 論文審査日時：令和5年2月23日（木・祝） 15時00分～16時40分 場 所：Zoomによるオンライン開催 1. 学位論文の構成と概要 (1) 論文の構成 第1章 研究の背景と目的 第2章 持続可能な消費と生産に関する授業の題材構成と意識調査方法 第3章 伝統的な綿織物の着用による素材特性の変化 第4章 伝統的な綿織物を教材とした授業が中学校の衣生活意識に及ぼす影響 第5章 結論及び今後の課題 (2) 論文の概要 研究の目的は、伝統的綿織物の消費性能を素材特性の変化として捉え、素材特性に基づく機能性・感性価値の評価を行い、それを踏まえて開発した技術・家庭科家庭分野における伝統的綿織物を教材とした授業実践が中学生の衣生活意識に及ぼす影響について検証することである。 第1章では、先行研究を踏まえ、家庭科教育におけるものづくりの意義、伝統的綿織物の教材としての価値、持続可能性と家庭科教育との関わりについて検討した。 第2章では、伝統的綿織物を教材とした授業が中学生の消費意識に及ぼす影響について検証すると共に、持続可能な消費と生産に関する意識の向上につながる家庭科の衣生活に関する題材構成と意識調査方法について検討した。その結果、消費と環境の授業で高まった「衣生活行動」や生産者や生産地への考慮などの「消費行動」、伝統的な衣生活文化に関する意識が被服製作実習を通して維持される傾向が確認された。この授業実践に基づいて、中学生の衣生活意識を調査するための質問項目として4つの大項目で構成される22問が抽出され、以降の調査の基礎となった。 第3章では、伝統的綿織物としての綿クレープ織物（高島ちぢみ）の着用による素材特性の変化について、その範囲と特徴を定量的に評価した。その結果、綿クレープ織物の肌着は長期間着用・洗濯により伸びやすく、柔らかく、滑らかな触感が得られると判断された。綿クレープ織物は長期間着用後もクレープ織物の特徴である凹凸を保ったまま、風合いがよくなることが明らか

となった。また、伝統的綿織物としての綿クレープ織物（高島ちぢみ）の特徴、その教材としての意義について論じた。

第4章では、被服製作実習の題材の違いや素材特性を確かめる簡易実験、製作した被服の着用体験が中学生の衣生活意識に及ぼす影響を検証した。その結果、エコバックを題材とした場合と比較して、ハーフパンツと簡易実験を題材とした授業実践において「衣生活行動」「消費行動」「環境」「伝統文化」すべての大項目で意識が高く教育効果が示唆された。また、生産者を配慮するなど「消費行動」意識は、授業実践半年後に着用体験を実施することにより上昇する傾向が確かめられた。

第5章では、本研究で得られた知見を整理し、以下の結論が得られた。

綿クレープ織物は長期間着用により、凹凸を維持したまま風合いがよくなることが明らかとなった。この特長は、衣服を長く大切に着用することにつながり、衣生活における環境配慮型消費行動を伴う消費者層の拡大をめざす家庭科教育と深く結び付けられる可能性が示唆された。持続可能な消費と生産につながる家庭科教育の実践について、「消費生活と環境」の学習後に被服製作実習を位置づけた学習順序で中学生の衣生活意識の向上に効果がみられ、ハーフパンツの製作と科学的に素材特性を確かめる簡易実験を取り入れた題材で教育効果が高かった。自身で製作した衣服を実生活で着用することは、授業実践後の衣生活意識の維持に繋がり、伝統的綿織物を教材とした授業実践が中学生の衣生活意識の向上に一定の効果を及ぼすことが明らかとなった。

2. 審査経過

審査に先立ち、Zoomによる公聴会を実施した。論文概要についての発表の後、質疑応答がおこなわれた。その後の審査委員会では以下の点について質疑応答、審査が行われた。

(1) 研究の独創性及び発展性

本研究は伝統的な綿織物としての綿クレープ織物（高島ちぢみ）に着目している。その消費性能を素材特性の変化として捉え、素材特性変化や着用評価に基づいて、綿クレープ綿織物で作られた衣服は長期間着用後の触感がよくなる傾向を明確にしている。この布の消費性能に関する報告は少なく、着用による素材特性変化の範囲と特徴を定量的に捉えたことに独創性があると評価できる。また、その結果を科学的な根拠に基づく教材として、中学校技術・家庭科の持続可能な生産と消費の授業実践に活かしたことも独自の視点である。

この成果は、伝統織物の機能性・高感性の伝承を科学的根拠に基づくマイメリットとして動機づけ、よいものを大切に永く着る衣服寿命長期化への提言、衣生活における環境配慮型消費行動を伴う消費者層の拡大をめざす家庭科教育に結びつく発展性があると認められた。

(2) 学校教育実践への貢献

本研究では、伝統的綿織物の消費性能を踏まえて、伝統的綿織物を教材とした授業実践が中学生の衣生活意識に及ぼす影響について検証している。持続可能な消費と生産につながる家庭科教育の実践において、伝統的綿織物を素材とした被服製作実習を生産活動と捉え、「消費生活と環境」の学習と組み合わせた授業実践を行った点に独自性がある。消費生活と環境の学習後に被服製作実習を位置づけた学習順序で衣生活意識の向上がみられたこと、ハーフパンツの製作実習と素材特性を確かめる簡易実験を取り入れた題材で教育効果が高いこと、製作した衣服を実生活で着用することは授業実践後の衣生活意識の維持に繋がり衣生活意識の向上に一定の効果を及ぼすことが明らかとなり、中学校技術・家庭科家庭分野の教育実践に貢献する成果が得られたと認められた。今後、他校種の家庭科教育実践への貢献、他教科や学習活動への発展が期待される。

3. 審査結果

以上により、本審査委員会は横山真智子の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。